チヨンタ
ーシは大
石の意

駒を停めて撫然たり

セシル嶺
北の幕營

稍々急行程八里餘、午後二時チヨンターシ（チヨンタ―シは大石の意、此地路傍に大石危岩あるを以て名つく）に到る。附近南側の山は、花崗岩多く、北側は硅岩泥岩依然たり。

道路は實に海拔一萬五千尺内外の高さにありて、頭痛及呼吸の促迫、食慾の不進、前日と同じ。駄馬總數十二頭中二頭は坂路を辿る際、鼻腔血を出し、甚だ疲勞したるか故に、駄載を解き、他の健馬に分載し、一人を附して後方より徐々隨行せしむ。路傍に一斃馬あり、漸く近けば頭を擧げ、一行を注視して哀を請ふものゝ如し。何人か其用ゆべからざるを見て、遺棄したるものなり。思はず駒を停めて、憮然たるものの之を久ふす。されど救助の手段なく縱し救助したりとて、再び起つとは思はれざれば涙を揮ふて之を棄つ。是日燃料缺乏の爲め、草根を掘りて薪に換ふ。

四日南風强く、氣溫は午前二十一度、午後は五十七度を示す。午前八時四十分發、西上一里餘、其間右側に小池あり。次で南下二里餘印度（インダス）河の上流に出づ、水淺くして渡河容易なりき。次で急坂を上りて、セシル嶺北の中腹に幕營す。蓋し明日はセシル嶺外、二箇の小嶺を超へざるべからざるに、該三箇の嶺上には氷河ありて、早朝氷面尚ほ堅き時に於て跋渉せざれば、日中は幾分か溶解するが故に、滑走の虞あ